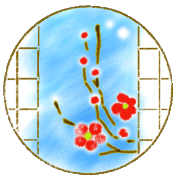
ひきじだい

令和６（2024）年１月29日
如月（２月）号

大和市立
引地台小学校
HIKIJIDAI ELEMENTARY SCHOOL

「為せば成る。為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。」



新年を迎え、早いもので、1ケ月が過ぎようとしています。1年で一番寒い時期である今、様々な風邪が流行しているようです。学校でも感染予防に気を配って参りますが、体調管理など、ご家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。

【こぶしの花芽】

昨年の猛暑で、「枯れてしまったのでは？」と心配した引小のシンボルツリーである「こぶしの木」ですが、また、元気に小さい花芽をつけました。寒風にじっと耐えて、春の訪れを待ち望み、開花に備えているようです。３月の卒業式、修了式の頃、白い美しい花を咲かせてくれることを期待しています。

【上杉鷹山】（うえすぎようざん）

さて、「為せば成る。為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。」と言った人は江戸時代の米沢藩（現在の山形県米沢市）九代目藩主上杉鷹山です。米沢藩は、幕府から配置換えを命令されて、その結果、収入が１２０万石から３０万石の４分の１に減ってしまいます。

鷹山の代では、さらにその半分の収入になり、借金も膨らみ、人々の生活は大変苦しいものとなりますが、鷹山はあきらめずに、様々なことを考え実行していきました。

藩の改革をはじめ、江戸藩邸での自分の生活費を１３％減らし、織物産業を起こし、藩の学校として興譲館（こうじょうかん）を再建して教育に努め、食料になる植物の研究をさせ、領民の非常食確保に努め、木版画などで領民にも教えました。

その大変な努力の結果、少しずつ人々のくらしは改善され、返せそうもなかった借金も完済することができたそうです。できそうもないことでも、少しづつ頑張れば、必ずいつかは達成できるということを身をもって示した鷹山が息子に言い送った言葉がこの言葉です。アメリカの大統領Ｊ・Ｆ・ケネディは尊敬する日本人として上杉鷹山の名前を挙げたそうです。

私は、マラソンは得意ではありませんでした。高校の一年生の時、走る距離を伸ばせるようにあきらめずに一生懸命練習したことがありました。その時は、びっくりするくらい、良い成績をもらって喜んだことを覚えています。子どもたちの目標達成、夢の実現に向けて、この言葉を送りたいなと思いました。

先日、創立４０周年の記念行事として神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「子どもたちの音楽体験事業」が行われました。子どもたちは、目の前で、オーケストラの演奏を聴き、また、一緒に楽器を演奏するといった大変貴重な体験をすることができました。みんなが感動して、また、楽しい時を過ごすことができて、感謝しております。２月も、子どもたちが明るく笑顔のある毎日を過ごすことができるように教育活動を推進して参ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。（校長）